

令和8年
新春
特別号



白山石川医療企業団 だより

これまでも そして これからも



白山石川医療企業団



公立 松任石川中央病院



公立 つ る ぎ 病 院

トツプメツセージ 年頭のご挨拶



「つながり」で
支える地域の
健康生活
白山石川医療企業団
企業長 卜部 健

新年あけましておめでとうございます。

令和8年午年の新春を迎え、日頃より当企業団の医療介護活動に対し、深いご理解と温かいご支援を賜りますこと、心より厚く御礼申し上げます。

近年、医療情勢を取り巻く状況は劇的な変化に直面しています。超高齢化、複雑化する疾患、自然災害への備え、新たな感染症のリスク、そして物価高騰や医療人材確保といった社会情勢、社会構造の変化も、医療機関の運営に大きな影響を及ぼしています。

こうした課題に対し、私たちは「地域に根ざした持続可能な医療」の実現を掲げ、高度先進医療のさらなる強化、予防医療の推進、在宅医療の充実、ICTを活用した高齢者見守りモデルの構築など、時代に即した新たな取り組みを進めています。

公立松任石川中央病院と公立つるぎ病院、そして白山ろく総合診療センターが一体となり、地域医療の中核としての役割を果たしつつ、白山ろくおよび手取川扇状地にお住いの地域の皆さま一人ひとりが安心して暮らせる「まちづくり」に少しでも貢献できますよう、きめ細やかな医療介護の提供に努めてまいります。

令和8年も、皆さまの「健やかで穏やかな暮らし」を医療介護面から支えるため、職員一同、決意を新たに職務に励む所存です。

本年が、皆さまにとって、希望に満ちた一年となりますよう心よりお祈り申し上げます。



新病院
開院にむけて

公立松任石川中央病院

病院長 尾山 勝信

新年あけましておめでとうございます。

令和9年の移転に向けた新病院の建設は順調に進み、工事の音を聞きながら原稿を執筆していると、新たな病院の完成が近づいていることを実感します。新病院の開院は、当院にとって新たな歴史の第一歩であり、多くの可能性を秘めた大きな飛躍の機会であると同時に、さらなる挑戦と成長に向けた重要な節目でもあります。

変化の大きい社会情勢に対応するため、私たち自身も常に進化し続けなければなりません。昨年はスタッフの充実や最新医療機器の導入を進め、より良い医療を提供できる体制づくりに努めてまいりました。

地域の皆さまに選ばれ、信頼される病院であり続けるため、診療体制の強化に加え、地域医療との連携、チーム医療の推進、働きやすい職場環境づくりなど、引き続き課題に真摯に取り組んでまいります。

本年もどうぞよろしくお願いいたします。

謹んで新年のお慶びを申し上げます。

2040年に向けてわが国では高齢化が急速に進行する一方で、支え手となる労働人口は確実に減少していきます。とりわけ85歳以上の高齢者が急増することが見込まれています。一般にこの年齢層では、手術や抗がん剤治療など、身体への負担が大きい高度医療の適応となる患者は多くなく、むしろ複数の慢性疾患を抱えながら地域で暮らし続けるための総合的な支援が求められます。一方で、近年は医療従事者の不足や病院経営の悪化のため、全国的に病院の再編・集約化が避けられない状況にあります。その中で地域の中小病院では、限られた診療体制のもとで多様な疾患に対応する「総合診療力」が重要となってきました。

当院では、昨年10月に発足した金沢大学総合診療共創センターと連携し、総合診療専門研修プログラムを開始する予定です。今後、限られた人員の中でも、ある程度幅広い診療が受けられる体制づくりを進めていきたいと考えています。

本年も皆さまのご理解とご支援を賜りますようお願い申し上げます。

持続可能な
地域医療の実現に
必要な「総合診療力」



公立つるぎ病院

病院長 柿木 嘉平太

特集
1

公立松任石川中央病院 新病棟 令和9年1月完成予定

地域医療を支える最先端の「ハブ病院」へ

公立松任石川中央病院は、新病棟を建設する第七次増改築工事に取り組んでいます。災害に強く、環境にも配慮した設備を備え、医療DXをさらに加速させるとともに、介護や福祉分野とも連携した医療提供体制を整備します。白山市・野々市市・川北町を中心に、手取川流域で暮らす住民の皆さまの生命と健康を守る、最先端の「ハブ病院」を目指します。

霊峰白山をイメージ

新病棟は地上6階、地下1階建ての鉄筋コンクリート造りで、現在の病院北側に建設します。

病院正面玄関には新たな病院のシンボルとなる、霊峰白山をイメージした大きなひさしを設け、新病棟1階には外来エリアや吹き抜けホール、2階には手術室や各種検査室を配置します。3～5階は病棟です。スタッフステーションを中央に置き、それを囲むように病室を配置して、患者さんとスタッフの距離が近くなるよう工夫しました。全ての病室に外光を取り込む窓を設置します。雄大な白山を眺めながら食事が楽しめる食堂も整備する予定です。

病床数は45床増えて計350床となり、令和9年1月の竣工を予定しています。

医療DXをさらに加速

新病棟建設にあたり、4つの整備方針「①医療DXの加速」「②カーボンニュートラル」「③災害拠点」「④新興感染症対策」を掲げています。

同病院ではこれまでも、診察予約の確認や受付、処方箋の受け取り、医療



医療DXの加速

これまでの通院・投薬履歴に、介護や福祉情報を加え、地域が求める医療ニーズを把握します

災害拠点

免震構造のため大規模地震に強く、自家発電も備えます。災害時には拠点病院として人命救助にあたります

カーボンニュートラル

温室効果ガス排出量の実質ゼロを目指し、環境配慮型の建物構造を採用します

新病棟が掲げる 4つの柱

新興感染症対策

新型コロナウイルスのような未知の感染症が発生しても、隔離病棟などをスムーズに設けられるようにします



環境にやさしく、 災害に強い

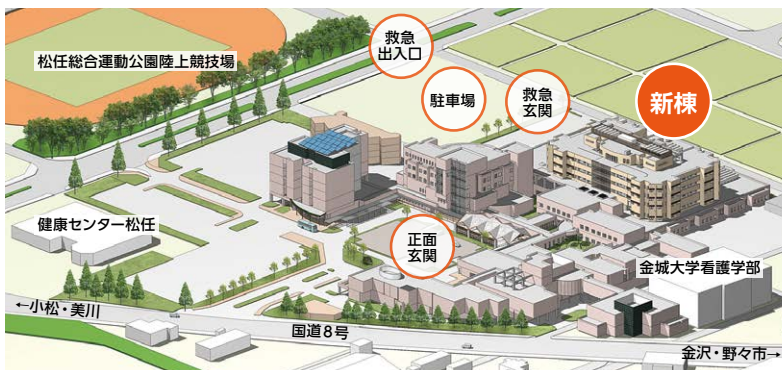
新病棟は、太陽光パネルによる蓄電やLPガスによる自家発電設備を備えるほか、LED照明、高効率空調機などを導入し、建物全体の実質的なエネ

費の支払いなどを手元のスマホで完結できるアプリ「NOBON(ノボリン)」を運用したり、全国で初めて紙の処方箋を全て原則電子化にするなど、医療DXへの取り組みを推進してきました。

新病棟の整備にあたり、さらに医療DXを加速、進化させることで、介護や福祉サービスにおいて必要とされる患者情報等、地域が求める医療ニーズの把握に努めていきます。

ルギー消費がゼロとなる「ZEB(ネット・ゼロ・エネルギー・ビル)」化を目指しています。免震構造も採り入れており、能登半島地震などのような大規模な地震に強く、環境に配慮した建物となります。

また、新型コロナウイルス感染症に対応した経験をもとに、将来、未知の感染症が発生した場合でも、スムーズに隔離病棟を設けることのできる構造とし、いかなる時も人々の生命と健康を守る、地域の基幹病院としての使命を果たしていきます。



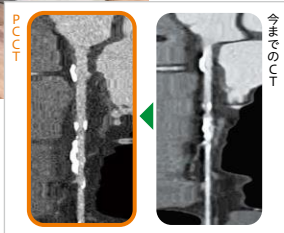
細くなった血管も撮影可能 PCCCTがより正確な診断に貢献

令和6年9月から公立松任石川中央病院で運用を開始したフォトンカウンティングCT(以下、PCCCT)が、従来に比べてより正確な画像診断に大きく貢献しています。PCCCTはドイツ・シーメンス社製で、県内で導入しているのは同病院のみです。

短時間で高精細な画像を撮影できるPCCCTの特徴を活かして、同病院では主に循環器内科で使用し、狭心症や心筋梗塞の原因となる狭窄を、より正確に捉えることができます。



● Photon-Counting-CT (上) スtent(血管が狭くなった部位を拡張する目的で使用される専用の器具)を留置した冠動脈。白い部分が石灰化を示している(右) (松任)



PCCCTで膵がんの早期発見に向け 世界初の画像診断法確立へ

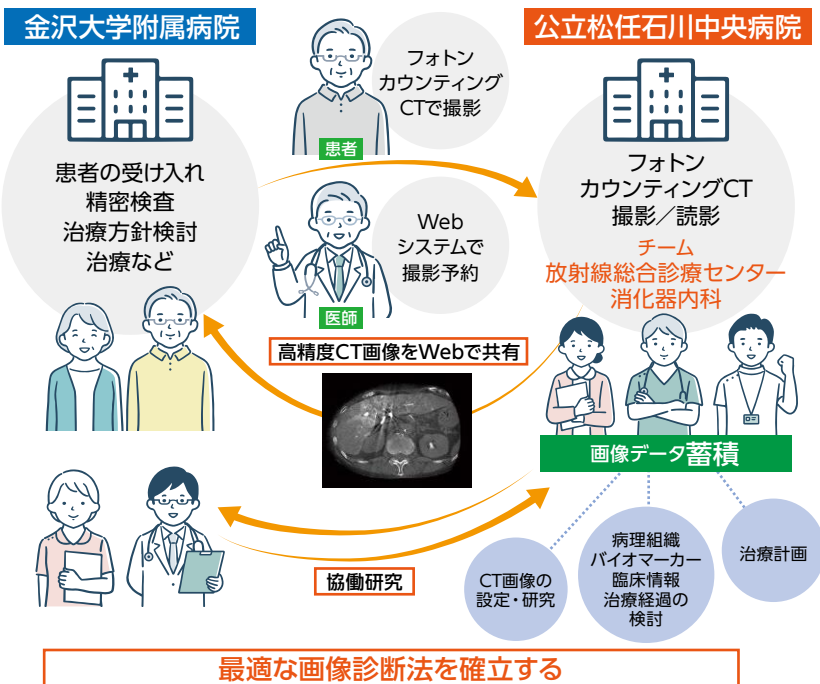
国立がんセンターのまとめによると、膵がんによる死亡者数は増加傾向にあり、特に女性の死亡者数は20年前に比べて2倍以上となっています。

膵臓は胃の後ろ側にある臓器であるため、仮にがんを発症していてもエコー検査では見つかりにくいと言われており、手術が難しい状態で診断を下されるケースがほとんどです。そのため、早期診断法の確立や各ステージにおける最適な治療法の開発などが急がれています。

公立松任石川中央病院では、前述のPCCCTの機能を最大限に活かし、金沢大学附属病院に設置された革新的膵がん医療研究開発センターとの連携による新しい膵がん診断法の開発にも取り組んでいます。金沢大学附属病院を受診した膵がんを疑われる患者さんは原則、公立松任石川中央

病院でPCCCTによる検査を受けます。撮影データは両病院で共有され、双方の放射線科医が協力して読影、診断を下して治療方針を決めています。

CT画像には、撮影時の器械の設定条件、血液検査や病理検査の結果、治療法、予後といった患者さん一人ひとりの情報を結びつけ、蓄積していきま。こうして収集したデータを解析することで、PCCCTの最適な撮影条件を模索し、最終的に膵がんを画像で見つける方法を確立する計画です。



新々血管造影X線装置の導入 病巣へより正確なアプローチを

公立松任石川中央病院では、令和7年5月、全身用血管造影X線装置の更新を行い、オランダ・フィリップス社製 Azurion (アズリオン) 7を導入しました。

血管造影X線装置は、造影剤を注入しながら血管の様子を映し出し、細くなった血管を広げたり、動脈瘤の破裂で生じた出血を止めるなどのカテーテル手術を行う際に用いる装置です。

今回導入した血管造影装置は、悪性腫瘍につながる血管を3D表示するなどさまざまなサポート機能を備えており、これらを活用することで、病巣へ、



● 新たに導入された血管造影X線装置 Azurion7 (松任)

より正確にアプローチできるようになりました。より精密かつ精細な透視画像の取得と画像処理に加え、被ばく量も従来の装置に比べて大幅に軽減されており、患者さんや医療スタッフにやさしい、安全かつ正確な治療の提供に貢献しています。

前立腺がんの新しい治療「Lu-177PSMA」開始のお知らせ

公立松任石川中央病院では、「転移を有する去勢抵抗性前立腺がん」の患者さんを対象に、全く新しい治療法「Lu-177PSMA放射性リガンド療法」を令和8年初頭より開始します。

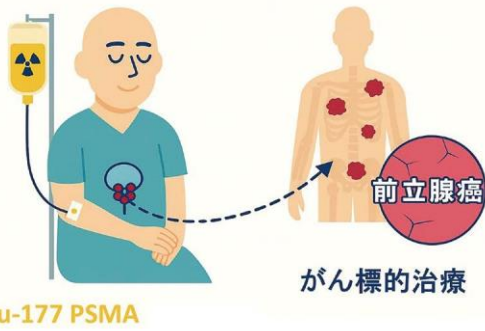
前立腺がんは日本の男性で最も多いがんの一つであり、令和3年には全国で95,584人が新たに診断され、人口10万対156.6人の罹患率が報告されています。したがって石川県には約1,500人の患者さんがいると推計されます。また、前立腺がんは近年増加傾向にあり、特に高齢男性に多く見られます。

去勢抵抗性前立腺がんとは、男性ホルモンを抑える治療を続けても効果が薄れ、がんが進行してしまう前立腺がんの状態を指します。Lu（ル）テクニウム（¹⁷⁷Lu）PSMA療法は、がん細胞の表面に多く存在するPSMAという分子を標的に、治療用の放射性物質であ

る「Lu-177」を結合させて体内からがんを放射線で狙い撃ちする画期的かつからだにやさしい治療法です。

この治療は、転移を有する去勢抵抗性前立腺がん(mCRPC)において全生存期間の延長と病勢進行の抑制が確認されており、完全奏効(腫瘍が完全に消失した状態)率約21%、部分奏効(腫瘍の大きさが一定程度小さくなった状態)率約20%と高い効果を示しています。さらに、従来の薬剤治療と比較して生活の質(QOL)の改善も報告されています。

転移があっても治療が可能です。治療に関するご相談は、同病院泌尿器科または放射線総合診療センターまでお気軽にお問い合わせください。地域の皆さまの健康を支えるため、最先端の革新的医療を提供してまいります。



●前立腺がん転移の放射性リガンド療法のイメージ(松任)

健康フェアで地域と交流

公立つるぎ病院では、年に1回地域住民との交流や地域の健康増進を目的に、「公立つるぎ病院健康フェア」を開催しています。

令和7年度は、令和7年10月18日(土)に開催されました。当日は、1階の外来にて体験・相談コーナーを設け、各種健康チェック、「手指衛生チェック」「もしバナゲーム」「つるぎ病院クイズ」などを実施しました。

特に骨密度測定のコナーでは、測定値に基づき医師から直接生活アドバイスを提供し、相談コーナーでは各専門職が参加者の疑問にお答えいたしました。「もしバナゲーム」では、カードを使用し、普段話にくい「人生の最期」について、ゲームを通じて自然な形で自己理解と他者理解を深めることを助け、将来の意思決定(ACP:アドバンス・ケア・プランニング)のきっかけを作る場を設けました。

また、2階の会議室では、医師の講演会を開催し、第一部では「今日からはじめる人生会議」と題し、金沢大学附属病院総合診療共創センター副センター長西岡亮医師にご講演いただきました。第二部では「頻尿について」と題し、公立つるぎ病院泌尿器科医長熊木修医師が講演

を行いました。国の普及啓発や医療・介護報酬改定による制度化が進む「人生会議」について、西岡医師には身近な話題から分かりやすく解説いただきました。また、年齢を重ねると避けて通れない「頻尿」について、熊木医師が参加者の身近な疑問をすっきりと解消しました。

「人生会議」や「頻尿」といった関心の高いテーマに対し、会場からは多くの質問が寄せられ、住民の皆さまの健康や将来に対する関心の高さがうかがえる一日となりました。



●多くの方が来場した講演会(つるぎ)



●各種健康チェックを体験する来場者(つるぎ)

特集
2

公立つるぎ病院の病棟を再編 地域に必要な医療機能を提供

「地域包括医療病棟」を増床し、 高齢者の入退院支援の体制を強化

公立つるぎ病院では、令和7年6月1日に医療機能強化を目的とした病棟再編を以下のとおり実施しました。

主に高齢の入院患者さんへの支援を総合的に行う「地域包括医療病棟」を3階病棟から4階病棟へ変更することで45床から54床に増床しました。

公立つるぎ病院は、急性期と回復期（包括期）の機能を併せ持つ152床のケアミックス型病院です。「地域包括医療病棟」「回復期リハビリテーション病棟」「地域包括ケア病棟」の3つの病棟があり、それぞれの機能を活かしながら、多職種が連携して患者さんの在宅復帰を支援しています。

特に「地域包括医療病棟」は、令和6年度の診療報酬改定で新たに設けられた病棟であり、救急搬送される高齢者への対応、リハビリテーション、栄養管理、入退院支援などを包括的に提供し、在宅復帰につなげる機能を有しています。当病院では、令和6年7月に3階病棟の機能を「急性期一般病棟」から変更し、運用を開始いたしました。

さらに、令和7年度は医療機能強化を目的とした病棟再編を図り、令和7年6月に、3階の「地域包括医療病棟」を4階へ、4階の「回復期リハビリテーション病棟」を3階へ変更いたしました。これにより、「地域包括医療病棟」を増床することで、より一層、高齢者医療への体制を強化いたしました。

同病院における救急で入院する高齢者は、誤嚥性肺炎や尿路感染症などの方が多くいます。当該病棟では、そのような方が早くリハビリを実施することで、心身の機能が衰えないように取り組み、早期の在宅復帰を目指しています。

高齢化が進む社会において、必要とされる医療が適切に提供できるよう、医師、看護師、リハビリテーションスタッフ、管理栄養士など多職種が連携し、チーム一丸となって医療と看護の提供に取り組んでいます。

各病棟の機能

5階病棟

地域包括ケア病棟
(54床)

4階病棟

回復期
リハビリテーション病棟
(53床)

3階病棟

地域包括医療病棟
(45床)

病棟再編

地域包括ケア病棟 (54床)

【目的】患者さんが在宅で生活できる状態になるよう環境整備と在宅復帰に向けた支援。
【対象となる疾病または対象者】急性期治療を終えた患者さん、在宅療養に不安のある患者さん、一時的に在宅生活が困難になった患者さんなど。
【入院期間】原則として、60日を限度としています。
【退院後のサポート】患者さんが安心して自宅で生活できるよう、近隣の関係機関など地域全体が協力して行います。

地域包括医療病棟 (54床)

【目的】リハビリテーションや栄養管理、入退院支援などを包括的に提供し、在宅復帰につなげる機能を有する病棟です。
【対象となる疾病または対象者】急性期治療を終え病状が安定し在宅復帰を目指す患者さん、高齢の救急搬送患者さん。
【入院期間】平均在院日数は21日以内、在宅復帰率は8割以上と定められています。患者さんの状態や在宅サービスが整い次第退院となります。
【退院後のサポート】必要に応じて外来診療や訪問看護、地域包括支援センターによる相談など、継続的な支援が提供されます。

回復期リハビリテーション病棟 (44床)

【目的】急性期治療を終えた患者さんが自宅や社会に復帰するためのリハビリテーション。
【対象となる疾病または対象者】脳血管疾患、脊髄損傷、頭部外傷、大腿骨骨折など。
【入院期間】疾患や状態によって異なりますが、90日（大腿骨や骨盤などの骨折など）～最大180日（脳血管疾患や頸髄損傷など）。
【退院後のサポート】退院前に自宅を訪問し、環境調査や改修の相談など、退院後の生活をサポートする環境が整っています。



● 地域包括医療病棟には、県外からも多数の病院が視察に訪れている（つるぎ）

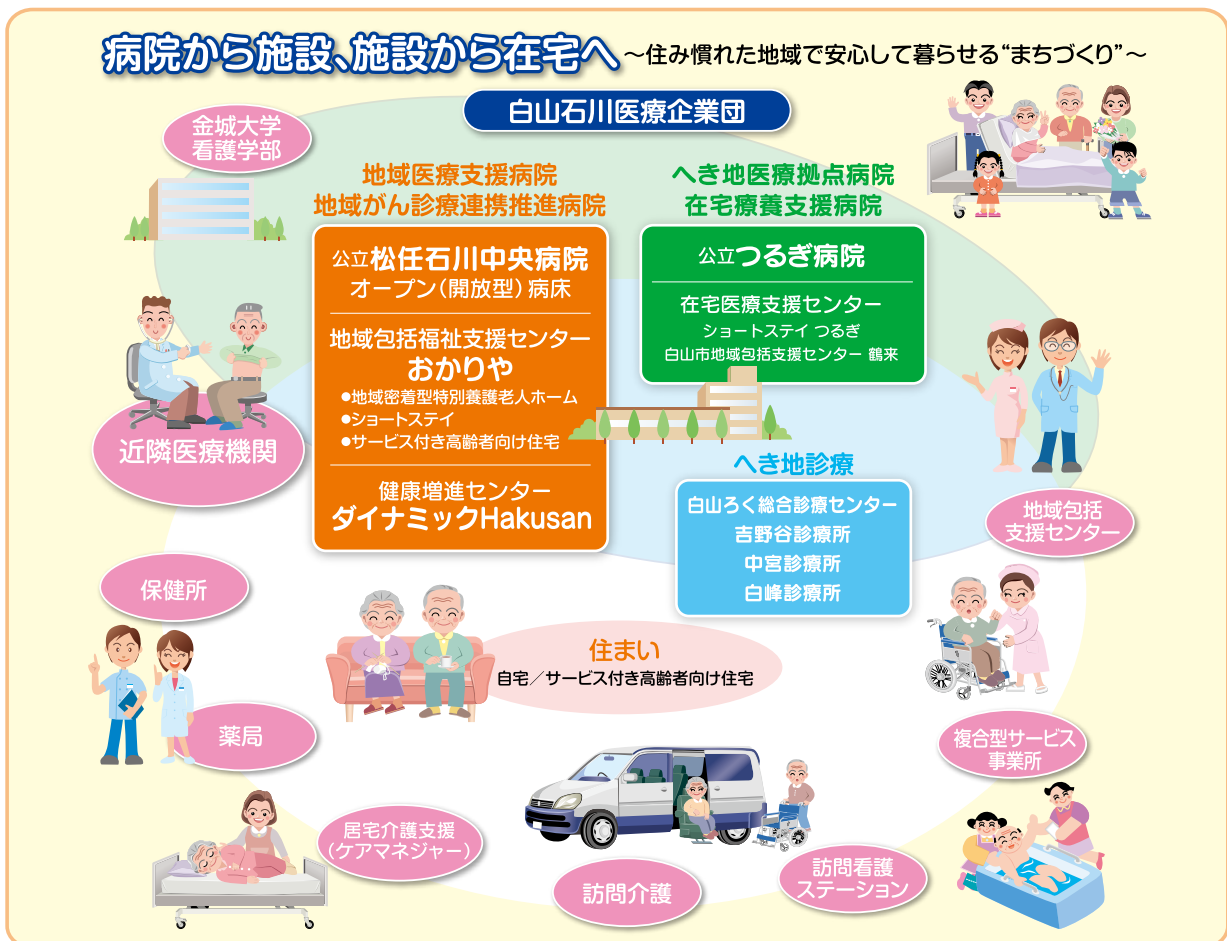
企業団連携 医療機関一覧

浅井小児科医院
あさがおクリニック
荒木耳鼻咽喉科クリニック
有川整形外科医院
池田クリニック
池田内科クリニック
池田病院
いけぶち整形外科クリニック
いこまともみレディースクリニック
石倉内科医院
今村耳鼻咽喉科医院
井村内科・腎透析クリニック
上田耳鼻咽喉科医院
うえの整形外科
うしむら眼科クリニック
岡村内科医院
織田内科クリニック
小野木医院
おりた内科クリニック
かがやきクリニック
金沢消化器内科・内視鏡クリニック野々市中央院
金沢脳神経外科病院
金沢みんなクリニック
かわい小児科医院
川北温泉クリニック
川北こどもクリニック
かわきた整形外科醫院
喜多内科医院
きのした内科・循環器内科クリニック
きむら耳鼻咽喉科クリニック
きりの里診療所
恵愛会 松南病院
齊藤小児科医院
酒井内科クリニック
さかえ内科クリニック

真田医院
さなだクリニック
三納クリニック
しおのやクリニック
耳鼻咽喉科つかたにクリニック
嶋医院
下崎整形外科医院
しらお眼科
新くりにっく
新村病院
せいだクリニック
聖来美クリニック
だいもん内科・腎透析クリニック
多賀クリニック
高田内科クリニック
たけお皮膚科クリニック
ただなわ整形外科クリニック
谷内科歯科クリニック
ちくだ医院
千代野苑
つじ川内科クリニック
津田内科医院
津山クリニック
津山整形外科クリニック
てらしま内科クリニック
ときわ病院
とみたクリニック
長尾医院
なかざわ腎泌尿器科クリニック
ながしまクリニック
なかでクリニック
中村皮膚科クリニック
なごみ苑
なんぶこども医院
にしかわクリニック

野々市こころのクリニック
ののいち産婦人科クリニック
ののいち整形外科脊椎外科クリニック
野々市なずな診療所
ののいち白山醫院
野々市よこみやクリニック
はしもと内科クリニック
ばんどう内科・呼吸器クリニック
福留クリニック
ふたつや皮ふ科クリニック
船木医院
ぶなのもり在宅診療所
ふるさわ内科クリニック
べんクリニック
ほりかわクリニック
前田眼科クリニック
松任整形外科クリニック
まつなが内視鏡・消化器内科クリニック
松葉外科胃腸科クリニック
南ヶ丘病院
みやうち眼科
みやた整形外科
三幸小児科医院
むとう小児科医院
メディカルらいふクリニック
矢ヶ崎外科医院
安原医院
やなぎ内科クリニック
やまかわ内科クリニック
山本クリニック
やまもと内科医院
吉光内科医院
わかば内科クリニック
わかばやし眼科クリニック
渡辺耳鼻咽喉科医院

(50 音順)



公立 松任石川中央病院

石川県白山市倉光三丁目8番地

TEL : 076-275-2222(代表) FAX : 076-274-5974

URL : <https://www.mattoh.jp>



公立松任石川中央病院
ホームページ



■ アクセス

JR松任駅からバスが運行されています

■ 診療受付時間

午前 8時～11時30分 午後 診療科によって異なります。
詳しくはお問い合わせください。

※休診日 土・日・祝日/年末年始

※緊急の患者に関しては救急外来にて診察いたしております

■ 診療科目

消化器内科、循環器内科、腎リウマチ内科、呼吸器内科、糖尿病内分泌内科、
甲状腺診療科、精神科、脳神経内科、血液内科、漢方内科、ものわすれ科、
小児科、外科、心臓血管外科、呼吸器外科、小児外科、整形外科、脳神経外科、
皮膚科、形成外科、泌尿器科、産婦人科、眼科、耳鼻いんこう科、
リハビリテーション科、病理診断科、臨床検査科、麻酔科、歯科口腔外科、
放射線総合診療センター（放射線診断科、放射線治療科、認知症研究所）、
白山南加賀ハートセンター、内視鏡センター、総合健診センター、
健康増進センター

地域包括福祉支援センター おかりや

地域密着型特別養護老人ホーム
ショートステイ
サービス付き高齢者向け住宅
TEL : (076) 274-2000
FAX : (076) 274-2151



公立 つるぎ病院

石川県白山市鶴来水戸町ノ1番地

TEL : 076-272-1250(代表) FAX : 076-272-3144

URL : <http://www.tsurugihp.jp>



公立つるぎ病院
ホームページ



■ アクセス

・加賀産業道路「安養寺北」交差点より
国道157号を白峰方向へ10分

・北陸鉄道石川線「鶴来駅」徒歩10分

■ 診療受付時間

午前 8時～11時45分 午後 診療科によって異なります。
詳しくはお問い合わせください。

※休診日 土・日・祝日/年末年始

※緊急の患者に関しては救急外来にて診察いたしております

■ 診療科目

内科、糖尿病・内分泌内科、消化器内科、循環器内科、腎リウマチ内科、
脳神経内科、呼吸器内科、小児科、外科・胃腸科、整形外科、脳神経外科、
皮膚科、泌尿器科、婦人科、眼科、耳鼻いんこう科、リハビリテーション科、
救急科、放射線科、麻酔科、健診室、在宅療養支援センター

通所リハビリテーションセンター ショートステイツるぎ



白山ろく総合診療センター

吉野谷診療所

中宮診療所

白峰診療所



白山石川医療企業団
公立松任石川中央病院/公立つるぎ病院

業務改善発表会

入場無料

事前申込み不要

医師による講演、病院職員の医療現場での活動発表を行います

日時

令和8年2月7日(土)
13:30～16:00

※無料シャトルバス運行
(公立松任石川中央病院～会場)

会場

白山市松任学習センター
プララ
コンサートホール
(白山市古城町305)